

帯広市立帯広第二中学校

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果をうけて

1 生徒の学力状況の概観

- ・国語 A では全国平均に比べてやや下回り、国語 B はほぼ全国平均並みであった。
- ・数学 A、数学 B では全国平均を大きく上回った。

この結果を受けて国語科における課題に正対した対策と、数学科での個に応じた指導のより一層の充実、アクティブラーニングを重視した授業スタイルの確立など、今後も生徒一人一人が学力を向上させられる環境・授業づくりを行わなければならない。

2 各科目の分析結果と課題及び改善の方策

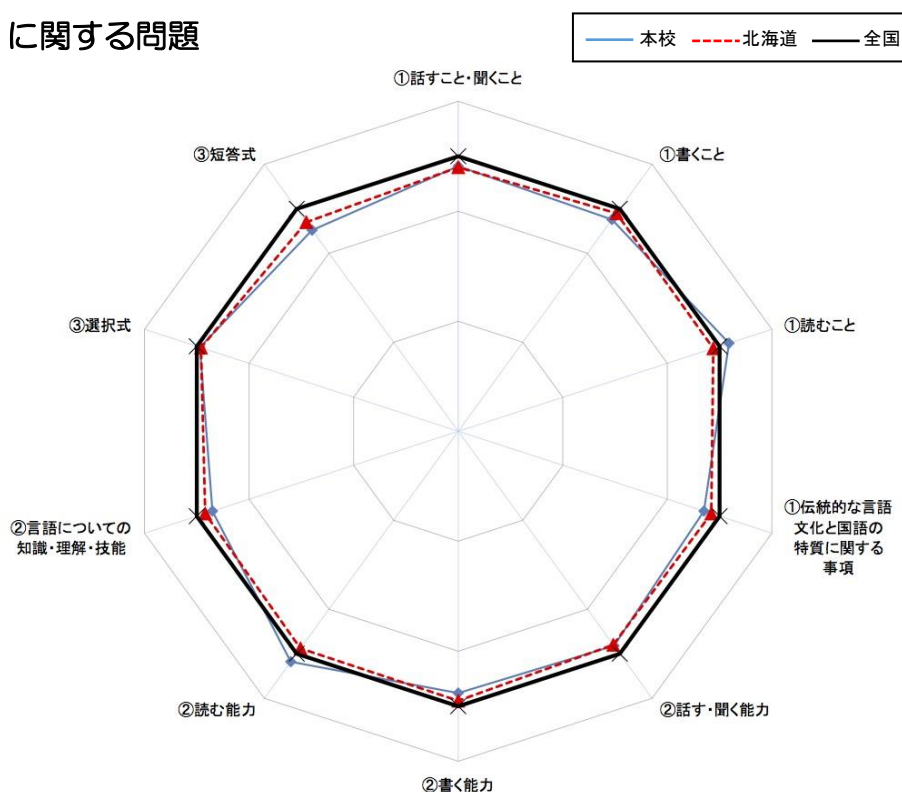
- ・・・全国平均を上回った項目
- ▲・・・全国平均を下回った項目 を表しています。

国語 A 主として「知識」に関する問題

〈分析結果と課題〉

○「読むこと」「読む能力」において全国平均を上回っている。

▲「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては全国平均をやや下回った。特に「全体と部分との関係に注意して話を構成する」ことや「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」ことに課題がある。

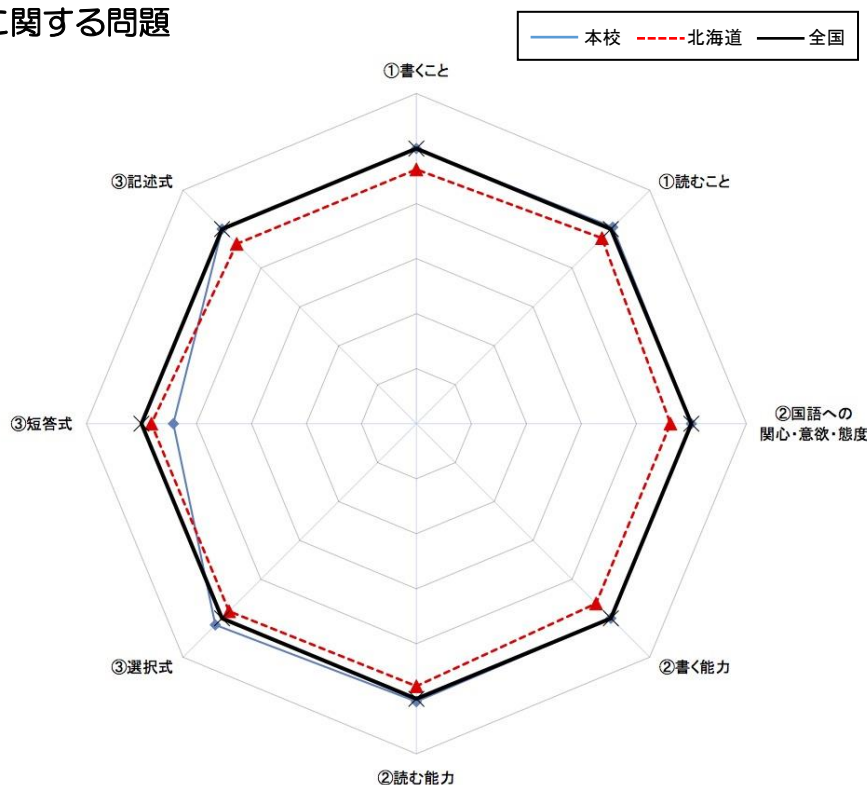


国語 B 主として「活用」に関する問題

〈分析結果と課題〉

○「読むこと」「読む能力」
においては若干全国平均を
上回っている。

▲ほぼ全国平均並みである
が、「文章の構成や表現の
仕方について、根拠を明確
にして自分の考えを具体的
に書く」ことや「文章の展
開に即して内容を理解す
る」ことに課題がある。



〈改善の方策〉

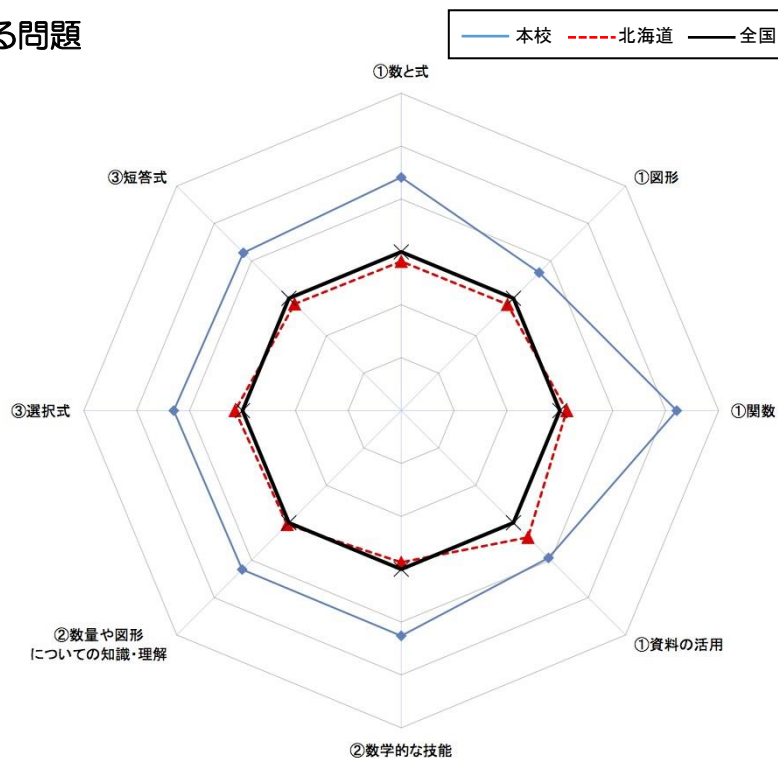
- ・「話す・聞く」活動の中で、互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分けたりできるようにする。
- ・自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、複数の実例や専門的な知見などを示し、根拠を明確にして書く力を身に付ける活動の充実を図る。
- ・身近なものに関わるパンフレット等の作成を通して、表現の工夫について説明したり、その工夫が効果的かどうか話し合ったりする活動などを適宜取り入れる。

数学 A 主として「知識」に関する問題

〈分析結果と課題〉

○すべての領域において大きく全国平均を上回った。特に「関数」「数学的な技能」の項目において理解度が高い。

▲課題としては、「資料を整理した表から最頻値を読み取ること」を問う問題について、無回答生徒が若干多く見受けられたことが挙げられる。

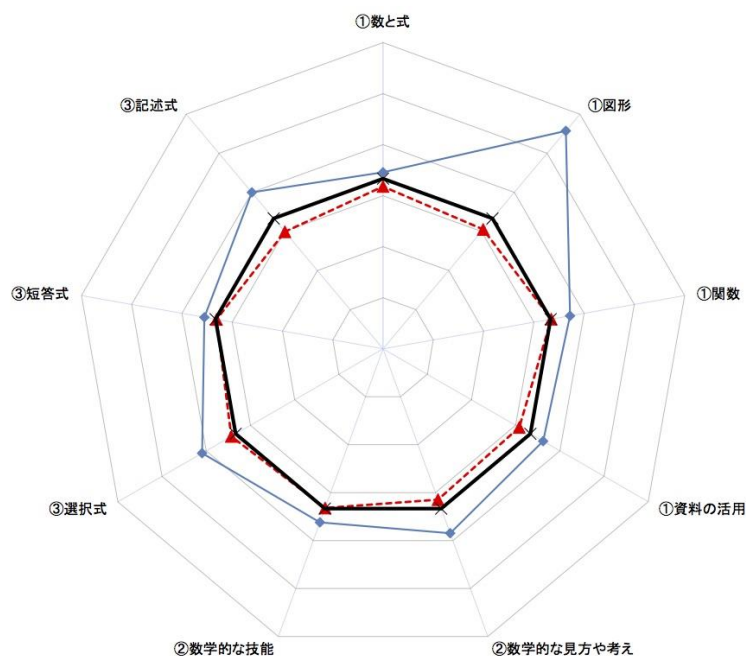


数学 B 主として「活用」に関する問題

〈分析結果と課題〉

○数学 A と同じくすべての項目で全国平均を上回る結果となった。特に「図形」の領域における理解度が非常に高い。

▲課題としては、「適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことや、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」ことが挙げられる。



〈改善の方策〉

- ・今後も継続して、プリント学習・小テストなどにより既習事項の学び直しの充実を図る。
- ・目的に応じてデータを収集し整理した表から、代表値を求める活動などを重視していく。
- ・問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、数学的に検討する活動を充実させる。

3 生徒質問紙の分析結果と課題及び改善の方策

生活習慣

〈分析結果と課題〉

- ・テレビ視聴とゲームをする時間の項目において「1時間未満」の数値が全国より低いが、「2時間未満」の数値は全国平均程度であった。また携帯電話・スマートフォン、インターネットをする時間については「1時間未満」「2時間未満」両方とも全国よりも高い数値を示しているため、適切な利用を促す指導が今後も必要である。

学習習慣

〈分析結果と課題〉

- ・家で予習、復習のバランスを考えながら見通しを持って取り組んでいる生徒が多いことが伺えるが、「学校が休みの日に勉強する」の項目においては全国平均より若干低い値を示しているため、休日にもできるだけ継続して学習に取り組む習慣づくりが必要である。

自尊意識・規範意識

〈分析結果と課題〉

- ・おおむね全国平均よりも高い数値を示しているが、「学校の規則を守っている」「友達との約束を守っている」では低い数値を示している。「やや当てはまる」という回答も含めれば高い数値を示すが、「規則」や「約束」についてとても厳しく考えている生徒が多いことが伺える。

〈改善の方策〉

- ・メールやSNSの利用を含むスマートフォンの使い方や利用時間（時間帯）についてルールを設けるなど、家庭と連携を取りながら着実に進めていく。
- ・休日もできるだけ学習を続けることを意識させ、継続した学習の習慣化を促す。
- ・「学校」「家庭」「地域」がしっかりと連携をとりながら、子どもたちの成長をしっかりと見守り、子どもたちの成長を認め、自己肯定感を持たせる環境づくりを進める。